
勇者

あやひこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者

【Nコード】

N8275A

【作者名】

あやひこ

【あらすじ】

ある日ささやく声に気が付くとそこはまったく知らない世界だった。

それは夢のような現実のような、
「、、、さい。目覚めなさい、、」

遠くでささやくようにその声は聞こえる。やさしく包みこむような女性の声。

おかーさんこんな声してたっけ？起きる時間なら目覚まし鳴るっしょ？第一こんな起こし方しないよなあ、、。

なんて瞳を閉じながらヒコは考えていた。瞳をあける事それはいつもと変わらない朝を迎えるものと思っていたヒコに大きな衝撃を与えるのであった。「おい、おまえらしい加減起きやがれ！」

さっきの声の持ち主の一転した声色に夢ごちも醒めヒコはぽっと目覚める。

なっなにここ？どこ？えっなんで!？

状況が飲み込めずキョトンとするしかなかった。

ヒコの目には四角い白い広い部屋が広がり、昨夜ジャージを着てベッドに寝たはずなのに何一つ身につけたものはなくただ一枚の白いシーツだけが無造作に体にかかっているだけなのだ。思わずぱっと起き上がる。

「きえええっー!!」

とっさにおたけびを發し更に後退りし、壁に背中が当たりしかしまた元の位置へ戻らざるを得ない状況である。

「もっと女らしい悲鳴あげられないの？」

と、男は言う。そう、思わずぱっと起き上がった瞬間白いシーツの反対側には若く、髪の毛の茶色い眉毛の細く整った男が横に寝そべり上半身裸でこちらをみていたのだ。とっさにシーツをつかみ後退するも男の陰部が露になるのをみるととっさに元いた位置へ戻らざるを得なかったのだ。

「あっあの、あっすいません。」

顔を赤らめうつむきながらヒコは言った。すると男はにやにやしなから

「何にたいしての謝罪？」

と返す。

あたしが動いたせいでああなたのちんこあらわにしてすいませんって言わせる気！？この男なんなの？

沈黙が二人を包む。例えなにか聞いたところでこの男はまともに返事しないだろうとヒコは感じたからだ。「目覚めましたね勇者たち。あなたたちは選ばれた人間です。さあ旅立ちなさい。そして旅の本当の意味をみつけないさい。では私はあなたがたの旅を見守っていますよ。」

「なんなの？」

ヒコは言う。

「俺は起きたらこんな格好でしかも何処ですか？って自問自答しちったよ。」

男は言う。

あれっ？なんかイメージ違うのかなこの人？

「でもよこの状況じゃ身動きとれねーしな。」

とたんに白い煙に覆われたかと思うとヒコは白いシャツにサスペンダーのついた深い緑色の単パンに茶色のブーツへ、男はタンクトップに軍パンビーチサンダルへ、そして二人とも同じ形の指輪がたのネックレスをした格好へ変身するのだった。

「すごいねこの世界。」

「うっうん。」

どちらともなく言う白い部屋の一角へ扉が現われそとの風景が見えだしている。

「いっとく？」

「うん。」

そういうと二人はどここの世界ともわからない場所へ一步を踏み出し始めた。

長く続く一本道を二人はただひたすら歩く。四方八方見回すがただただ大草原が広がるばかり。

「名前なんつーの？」

男がぶっきらぼうに言う。

「ひろこ。みんなはヒコって言ってるよ。あんたは？っーか自己紹介しとく？」

「俺は綾。年は17で高校は県立中央。んーサッカーしてたけど辞めた。んー聞きたいこと何でも聞いてくれた方が楽だな。」

「あたしも17。県南高校。あたしは帰宅部かな。県立中央ってあの坂の上にある頭いいところ？あっても他の県にも同じ名前のところあるよね。」

「んーたぶんヒコの知ってるところかね。、ヒコって髪の毛長いね。何年のぼしてるの？」

なーんてたわいのない世話ながら何日も何日も二人は歩きつづけた。彼女はまだ知らない。彼女がなぜこの世界にいるのか。

それは数時間前の出来事。俺は事故にあう。そしてだれも居ない世界で大好きだった彼女そう髪の長い南高のヒコと過ごしたいとねがうんだ。そして現在。

「綾って好きな人いるの？」

どうして彼女がこの世界にいるのか俺自身わからない。分かっているのはこれから彼女を俺のものにするまでの時間はたっぷりあるって事。

「俺いつも見てた子

がいるんだ、。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8275a/>

勇者

2010年10月17日03時55分発行